

## 報 会

## 兵小長

第 167 号

令和7年7月4日  
兵庫 県  
小 学 校 長 会

## 笑顔あふれる 元気な学校

～ともに進める・学び続ける・声を届ける～



会 長 赤 木 裕 之

## ◆令和七年度がスタート！

先日、姫路市（アクリエひめじ）において、令和七年度兵小長総会・研修会を開催することができました。中播磨地区、西播磨地区、姫路支部、そして、役員の皆様、準備から当日の運営まで、ありがとうございました。また、コロナ以降、令和四年度神戸地区（神戸市）・令和五年度阪神地区（伊丹市）・令和六年度播磨東地区（加古川市）と、四年連続対面で、各地区持ち回りの総会・研修会が開催できたこともとても嬉しく思います。

## ◆社会の大きな変化の中で

さて、現代は将来の予測が困難な時代であると言われ、その特徴である変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の頭文字を取って、「VUCA」の時代とも

言われています。近年の技術革新（生成AIなどのデジタル技術の発展など）による社会の変化だけでなく、深刻さを増す少子化・高齢化、協調・競争と分断・対立により混乱の度を増すグローバル情勢、気候変動による自然災害の発生など、社会や経済の先行きに対する不確実性がこれまでになく高まっています。これからの時代を担っていく子どもたちは、激しい変化が止まることのない時代を生きることであり、このような状況をしなやかに乗り越え回復する力を備える子どもをいかに育成していくかという観点は、これからの重要な課題です。まさに、子どもたちが、生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生をカジ取りする力を身に付けることの重要性が増してきています。

## ◆依然、厳しい教育をとりまく情勢

また、私たちは、令和の日本型学校教育の構築のもと、次々と寄せてくる教育課題に取り組まなければなりません。例えば、不登校・不登校傾向児童の増加、特別な支援を必要とする児童の増加、それらを含めた多様な学びでの対

応、そして、若手や中堅教員の人材育成、家庭や地域との連携協働、コミュニティ・スクールの推進、教職員の働き方改革、さらには、現在、大変厳しい教員不足・教員未配置への対応など、学校現場に於いては、課題が山積しており、教育をとりまく環境は、依然、厳しい情勢です。

## ◆笑顔あふれる 元気な学校

子どもたちを取りまく環境は大きく変化し、子どもたちの成長を促すために、私たちには、より一層の努力と工夫が求められています。

このような状況であるからこそ、「学校が元気」でなくてはなりません。昨年度、全連小の会長がよく話されていた言葉です。「学校は元気でなくてはいけない」、「学校を元気にしなくては」その通りだと私も感じています。

兵小長も「笑顔あふれる元気な学校」、「子どもをまんなかにしたウエルビーイングの実現」を目指していきたいと思っています。

## ◆兵小長の役割「ともに進める」「学び続ける」「声を届ける」

「笑顔あふれる元気な学校」にするために、

「ともに進める」

「学び続ける」

「声を届ける」

という兵小長の役割をしっかりと果たしていきたいと考えます。

「ともに進める」…兵小長の校長七三四名、横の連携をしっかりと、ともに学校経営を進めていきましょう。そして、教育委員会をはじめ関係機関と層の連携をしていきましょう。

「学び続ける」…校長として、高度専門職の教育者として、変化に対応できる知識などを身に付け、柔軟な学校経営ができるように学び続けていきましょう。

「声を届ける」…現場の状況を教育委員会・国に届けていきましょう。また、教育委員会や文科省からの情報を校長同士や教職員にしっかりと伝えていきましょう。

そして、校長として、経営ビジョンを明確にして、リーダーシップを発揮し、マネジメント力を向上させ、学校運営を進めていきましょう。

「兵庫は二つ」、皆さんとともに、今年度、頑張っていきたいと思えます。どうぞよろしく願っています。

(神戸市立成徳小学校長)



## 「兵庫は一つ、近畿は一つ」

副会長 藤山昌生

兵小長の会議や研修に参加させていただくと、県内各地の取組の違いや新たな視点を得る機会が多く、毎回意義深く感じています。

今夏には、いよいよ近小協兵庫大会が開催されます。この大会は、近畿各府県を取組を交流することのできる、校長にとつての重要な学びの場となります。また、阪神淡路大震災から三十年という節目の年でもあり、準備を万全に整え、心を込めたおもてなしをしたいと考えています。

あらためて「兵庫は一つ、近畿は一つ」という理念を胸に、確実に取組を進めてまいりましょう。

(宝塚市立売布小学校校長)

## 思いを新たに―天真爛漫―

副会長 横山康文

私事で恐縮ですが、十三年ぶりに現任校に着任しました。七年間お世話になった学校に戻ると、児童数が減っていたり教職員が代わっていたりはもちろんですが、子どもたちの雰囲気も変わっているように感じました。

先日、六年生のインタビューで校長先生の仕事はと聞かれ、どう答えたのかと考えましたが、みんなが笑顔で登校できるようにするのが仕事ですと答えました。うんうんと頷きながらメモする姿に、変わったのは子どもではなく私かと納得しました。

校長室にある「天真爛漫」という書を改めて見上げる毎日です。

(三木市立三木小学校校長)

## 「わ(和・輪・話)」を大切に

副会長 田口智章

目を輝かせながら「在りたい自分や未来」を描き、多様な他者と協働することに喜びや幸せを見出せる子どもたち。そして、一緒に未来を見つめて伴走しながら、誇りとやりがいをもって生き生き働くことのできる教職員。教員不足等、様々な課題と向き合いつつ、そんな「在りたい学校の姿」の具現化に向けて模索し続ける毎日が続きます。

現任校では、「あらかわの『わ』を大切に」が合言葉です。子どもたちと教職員の未来、そして兵庫の教育の未来のために、兵小長活動も県下七三四名の「わ(和・輪・話)」を大切に、ともに歩みを進めてまいりましょう。

(姫路市立荒川小学校校長)

## 多様性を強みに

副会長 河田哲也

兵庫県は、気候風土や歴史・文化の異なる摂津、播磨、但馬、丹波、淡路の旧五国が一つになった県です。この多様な地域が関わり合い、補完し合って発展してきた県だと言われています。

国や地域がそうであるならば、その兵庫で生まれ育った者としてはなおさら「人の集団もそうでありたい」と強く思います。先日アクリエひめじで開催された県小学校長会総会・研修会には中播磨地区の皆さんをはじめ、各地区の皆さんの力が結集された素晴らしい会でした。「兵庫は一つ」を改めて感じるとともに、これからも多様性あってこそその組織であり続けたいと思います。

(神戸市立長尾小学校校長)

## 全連小福岡大会

## 現大会主題の成熟期を迎える

庶務部長 鳥山雅弘

第七十七回全国連合小学校長会(以下全連小)研究協議会は、本年、十月十六日(木)・十七日(金)の両日、福岡県福岡市で開催となることが予定されております。

全連小研究協議会は、現行の学習指導要領が全面实施となった、令和二年度より「自ら未来を拓き、ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」という大会主題をもとに、その実現を目指して取組を進めてきました。

令和六年十二月二十五日の中央教育

審議会の諮問を受け、学習指導要領の改訂に向けた議論が始まりました。現行の学習指導要領・大会主題の円熟期に入るこの福岡大会は、これまでの研究成果と諸課題を踏まえ、大会副主題を「志をもち、多様な他者と協働しながら次代を創る人財を育む学校経営の推進」として行われます。

アジアの玄関口として、古より日本

の文化形成に重要な役割を果たしてきた福岡県は、「次代を担う『人財』の育成」を目指し、「鍛えて ほめて 子どもの可能性を伸ばす」をコンセプトとした「鍛ほめメソッド」を展開しています。子どもも本位の指導を推進し、子どもの学ぶ意欲や自尊感情、向上心やチャレンジ精神、勤勉性や困難に立ち向かう心など、子どもが自律的に成長するための原動力となる人格的資質を育成しています。

福岡県では、独自の指導方法をもと

に、学校教育の充実・発展に力を注いでおられます。本大会において、福岡県や全国各地の実践例に学び、学校経営の責任者である校長の果たすべき役割と指導性を究明していくために、次の五つの研究領域のもと、十三の分科会に分かれて研究協議が行われます。

I 学校経営(経営ビジョン、組織・運営、評価・改善)

II 教育課程(知性・創造性、豊かな人間性、健やかな体)

III 指導・育成(研究・研修、リーダー育成)

IV 危機管理(学校安全、危機対応)

V 教育課題(社会形成能力、自立と共生、社会との連携・協働)

また二日目には、福岡県にゆかりがあり、サグラダ・ファミリアの彫刻制作に携わっておられます外尾悦郎さんの講演も予定されています。

五月十五日にアクリエひめじで開催された兵小長総会・研修会では、県下各地よりご参集の皆様とともに、あらためて「兵庫は一つ」を確認し、ともに進みたいや絆がさらに深まったように感じました。

大会参加の皆様が、福岡県をはじめ全国各地の先進的な取組や小学校教育の方向性を各地区に広め、各校での学校運営に生かしていただき、さらに兵庫の教育が発展していくよう、ともに頑張っていきたいと思っています。

(神戸市立だいいち小学校校長)

経営委員会の活動について

経営委員長 喜多川 昌 之

兵小長研究大会は、昨年度西ブロック中播磨で実践交流を行いました。今年度は、第七十六回近畿小学校長会協議会研究大会兵庫大会を兼ねて実施いたします。

【経営委員会の活動目標】

(一) 全連小・兵小長の活動方針をふまえて、教育諸課題の解決に向けた実践的研究を推進し、創意工夫した教育活動及び学校経営の実践交流（研修・情報交流）を通じて、活力に満ちた魅力ある学校づくりに努める。

(二) 学習指導要領の趣旨をふまえて、「社会に開かれた教育課程」の実現に取り組み、学校教育の充実に努める。

(三) 確かな学力の定着を図るとともに、豊かな心・健やかな体を育て、教育課程全体を通じて「生きる力」の育成に努める。

(四) 家庭・地域社会及び関係機関との連携を一層密にし、安全・安心な教育環境づくりに努める。

【具体的目標】

(一) 第七十六回近畿小学校長会協議会研究大会兵庫大会（兼第七十六回兵小長研究大会（神戸大会））を意義ある研究協議の場とする。

ア 全連小研究主題を受けて、「生きる喜びと夢をもち 在りたい未来をも創る子ども」の育成」を研究大会副主題として研究を進める。  
イ 今後の学校経営に生かせるよう研

究大会の成果や課題をまとめ、「報告書」を発行する。

ウ あり方検討委員会と連携しながら、今後の兵小長研究大会の運営について検討を図る。

(二) 第七十七回全連小研究大会（福岡大会）への参加

【第七十六回近畿小学校長会協議会研究大会兵庫大会（兼第七十六回兵小長研究大会（神戸大会））について】

(一) 研究主題

「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」

(二) 期日・会場 八月十九日（火）  
神戸コンベンションセンター

国際会議場・国際展示場

(三) 分科会・研究領域

① 学校経営 ② 現職教育 ③ 人権教育

④ 生徒指導 ⑤ 特別支援教育

⑥ 教育環境・教育条件（防災教育含む）

【経営委員会の組織】

副会長 藤山 昌生（阪神）

事務局次長 山本 司（阪神）

委員長 喜多川昌之（阪神）

副委員長 福原 広行（淡路）

委員 藤本 由佳（播磨東）

大見 典之（神戸）

上村知一郎（阪神）

江指 容子（播磨東）

岸野 雅子（中播磨）

香田有紀子（西播磨）

株本 治夫（但馬）

小林 義則（丹波）

杉浦 光生（淡路）

支部委員四十六支部から各一名  
（川西市立北陵小学校長）

人事給与委員会の活動について

人給委員長 山 田 英 樹

「教育は人なり」と言われます。本来、教育は教員の資質能力や情熱によるところが大きいという意味です。しかしながら、「教育は人員確保なり」というべき状況にあり、資質能力や情熱以前に、教育に携わる人員不足解消が喫緊の課題となっています。

教員確保に向け、約五十年ぶりに職調整額を改善することや、平均残業時間を月三十時間まで削減するという数値目標を明記する「教員給与特別措置法」の改正案が可決成立しました。

人給委員会では、教育条件の整備及び教職員の処遇改善を柱として、以下の活動に取り組んでまいります。

【人給委員会の活動目標】

一 全連小・兵小長の活動方針を踏まえ、学校経営組織の充実強化を期し、教職員定数・学級編制基準の改善を図るための調査研究活動に努める。

二 調査研究活動により兵庫県と神戸市の人事給与等の実態を把握し、「学校教育の水準の維持向上のため」の義務教育諸学校の教育職員の人材確保に関する特別措置法」の堅持と職責に見合う処遇の改善に向けた取組の推進等、課題の解決に努めるとともに、全連小・近小協の活動に協力する。

三 人事給与に関する諸事項の周知を図り、教職員の意識改革、意欲向上に努める。

【具体的目標】

一 兵小長関係

ア 主幹教諭や加配教職員、六十歳以降教職員の配置状況、へき地校の実態等の調査を行い、教育環境充実のために各方面にわたり反映させるように努める。  
イ 教職員人事給与制度の現状と今後の課題について情報提供に努める。

二 近小協関係

ア 近畿各府県と人事給与等に関する資料を交換し、情報の把握に努める。  
イ 校長と教頭の年齢、経験年数、給与制度等の実態調査を行い、「調査研究第六四集」の編集に協力する。

三 全連小関係

ア 他府県と教育諸条件整備等に関する資料を交換し、情報の把握に努め、活動の充実発展に資する。

イ 全連小の諸調査に協力する。

【人給委員会の組織】

副会長 田 口 智 章（中播磨）

委員長 山 田 英 樹（中播磨）

副委員長 田 淵 雅 樹（阪神）

庶務 岩 見 治 生（中播磨）

本部委員 安 東 直 人（神戸）

植 松 俊 二（阪神）

宮 田 亘（播磨東）

小 林 悦 子（西播磨）

寺 田 浩 史（但馬）

芦 田 繁 昭（丹波）

十 河 巧（淡路）

支部委員 四十六支部から各一名  
（姫路市立昴野小学校長）

## 調査広報委員会の活動について

調査委員長 濱 谷 達 也

近年続く深刻な「教員不足」と教員の質の保障、特別な支援を必要とする子ども増加、多様化する保護者の価値観や考え方への対応など小学校教育における課題は山積しています。その情報を的確につかみ、対処するための情報の収集等が非常に重要となります。そこで、調査広報委員会は、兵小長の活動方針「生きた喜びと夢をもち在りたい未来をと共に創る子ども育成」の推進に向けて、総力をあげて調査広報活動に取り組んでまいります。

### 【調査広報委員会の活動方針】

一 全連小・兵小長の活動方針を踏まえ、直面する教育上の諸問題についての調査活動を実施する。さらに、必要が生じた場合は、これに加えて随時調査を行い、実践的な研究活動を推進する。

二 兵小長の目標達成に必要な会報・資料等による情報の提供や、ホームページ等による広報活動を推進し、会員相互の連携強化を図るとともに、活力に満ちた魅力ある学校づくりに努める。

### 【具体的目標】

一 兵小長関係  
ア学校や地域の状況をふまえ、兵小長会員の事態把握に関するアンケート調査を行う。その結果を県教育委員会との教育懇談会準備委員会に提供し、会員の要望を反映するように努める。

イ会報「兵小長」一六七号・一六八号を編集発行する。

ウ兵小長ホームページの更新・充実を本部事務局と連携して行う。

エ各地区・支部における会員の声や教育に関する課題等を、アンケート調査によって収集・分析・発信することにより、会員の交流を図る。

オ転学児童に関する情報交換を正確かつ迅速に行う。

### 二 近小協関係

小学校教育推進上の課題に関する資料や会報を交換し、近畿各府県の情報の把握に努める。

### 三 全連小関係

ア「小学校時報」「研究シリーズ」「特色ある学校便覧」等への寄稿に協力し、それらの購読を積極的に推進する。

イ全連小ホームページへの「特色ある学校紹介」に三年間に一回、六校を推薦して掲載をする。

ウ全連小の諸調査に協力する。

### 【調査広報委員会の組織】

副会長

横山康文（播磨東）

委員長

濱谷達也（播磨東）

副委員長

大森真次（但馬）

広報部長（近）

霧嶋敦志（神戸）

広報部長（兵）

崎川孝一（神戸）

調査部長

春名隆行（西播磨）

H P担当

坂田克己（播磨東）

広報委員

中川智子（阪神）

調査委員

柿本由子（中播磨）

調査委員

堀 博文（丹波）

支部委員

佐野悦司（淡路）

（明石市立大久保小学校長）  
四十六支部から各一名

## 地区の動き

### 阪神地区だより

阪神地区長 平 岩 健太郎

阪神地区小学校長会は、尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町の七市一町の百七十八校で構成されています。

阪神地区小学校長会は「阪神は一つ」との思いを共有して、ともに進む意識を大切にしていきます。総会は「書面総会」として負担軽減を図り、研修に重点をおいています。五月二十日に尼崎市のアルカイトホール・オクトにて教育コンサルタントの廣田誠氏を講師に招き、『ひとり一人が宝物』不登校支援の本質を考える』という演題でご講演をいただきました。

教育環境の異なる七市一町が教育課程の編成・実施・評価改善に創意工夫を凝らし、学習指導要領を円滑に実施しています。そして確かな学力・豊かな心・健やかな体を身につけた知徳体のバランスの取れた子ども育成や、GIGAスクール構想の推進等多くの課題に取り組んでいます。

年間八回、役員会を各市町持ち回りで開催し、阪神教育事務所からの指導伝達、各市町教育長からご挨拶をいただいています。また、前述した様々な取組の具体的な内容や、各市町で抱えている課題等の情報交換を行うことで、解決に向けた糸口等を得ることができています。

今後も「阪神は一つ」を合言葉に、様々な課題に対して、良い方向に進めていくよう取り組んでまいります。

（尼崎市立園和北小学校長）

### 播磨東地区だより

播磨東地区長 佐 野 順 子

本地区は、三市二町の東播磨地区と五市一町の北播磨地区からなる十支部、百二十七校で構成されています。

今年度は、コロナ禍以来、五年ぶりに対面で播東小長総会（web決議報告）・研修会を三木市で開催しました。本会では、播磨東教育事務所長様に「指導の重点と学習指導要領について（おさらいとこれから）」をテーマに講話いただきました。大きな教育の流れの中の現時点での校長の立ち位置と今後のポイントを共有できました。また教育課程だけでなくその実施にかかる条件整備の両輪から考えていくこと、腹落ちし、意識改革を進め、学校経営にあたることの大切さを痛感しました。

播磨東地区と二口に言っても広く、各地域各学校の現状は様々です。少子化、学校統合の波が大きな北播磨地区は、本会役員輪番へのグループ制を令和九年度より導入予定で、本年度は、その詳細を検討していきます。

その他、新たな教育課程の編成、教員未配置問題、特別な支援を要する児童や不登校への対応等、校長一人で行えることはもとより学校だけで解決できる問題は多くありません。「播東小長ってなんだろう」と考えると、良いことも困ったことも共有、相談でき、ここに集うみんなが元気であり続ける場所であるよう努めてまいります。

（三木市立緑が丘小学校長）